

適性検査Ⅰ

注 意

- 1 問題は **1** のみで、4 ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分で、終わりは午前九時四十五分です。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 受検番号を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

東京都立南多摩中等教育学校

問題は次のページからです。

1

次の文章は、画家である安野光雅あんのみつまささんが書いたものです。これを読んで、あとの問題に答えなさい。（*印の付いている言葉には、本文のあとに〔注〕があります。）

人の意見にまどわされないようにするためには、どんなことにも、心が動かされない頑丈がんじょうな地点てんてんに立って、つまり人がどうであろうと、自分ではあわてない、という堂々とした考えかたが必要になります。

テレビでこういつていた、新聞にこう書いてあった、などと、自分の意見はなく、ただただ人のいうことを本気にするだけというのは良くないと思います。

「自分で考える」ことは、前向きしんせいの姿勢の第一歩です。自分でやろうという気持ちが大それた、わたしは思っています。

以前、あるサイン会でこんなことがありました。絵を描かいている人から、小さい声で「どんな鉛筆えんぴつを使っているんですか。紙は何ですか？」と聞かれました。そのときわたしは「いくらでも教えるけれども、わたしに聞かないほうがいいのにな、自分で見つけた方が勉強になるのになあ」と思いました。

自分の考えで責任を持つてものごとに取りくめば、たとえ失敗したり、間違まちがったりしたとしても、改めることができます。

自分で考え、判断することの中から、これはほんとう、これは嘘うそ、とものごとを見極みきわめていけるようになりたいと思うのです。「学問」とは、何がほんとうか、何が嘘かを判断していく、そのためにあるのだと

もいえます。

「自分の考え」がなくなってきている、ということは困こまったことで、「自分の考え」がないと、無責任になってしまいます。人の意見に振りまわされたり、まどわされたりして過こすようでは、おもしろくない生きかたになってしまいます。

わたしは、街から街、国から国へと、ときに迷いながら旅をして、スケッチをしてきました。その場で腰こしをおろして絵を描いていると、その絵がうまくいかなくても、何とも心豊かな時間が過ぎていきます。そして、不思議なことに、同じ時間をかけていても、普段ふだんよりもたくさんちがの絵が描けます。そこに立っている木に、何を感じて描くか。そのことで絵は違ちがったものになるのだらうと思っています。

実際にスケッチをした場所は、写真で見た場所よりも、ずっと心に残るものです。写真を見て絵を描くことはできませんが、わたしの場合、その写真に似た絵は描けても、実物を見て描いたものとはどこか違ちがってきます。人と会ったときがいい例で、写真で見た感じと、実際に会った感じが違うことがあるのだらうと思っています。

*デカルトは、あらゆる本を読みつくしたあと、旅に出ました。実際に世の中に入って、世間と交わって、さまざまなことを学びとっていかうとしたのです。偶然ぐうぜんかどうかわかりませんが、建築家の安藤忠雄あんどうちゅうおさんもたくさんちがの本を読みおえ、旅に出ています。そして、「自分でいろいろなことをつかみとっていく。そして実際のものから勉強をする。それが学びである」といっていました。

わたしは本を読むことをすすめています。できるのであれば、本を読むのと同時に、旅に出るといいと思っています。^{*}物見遊山もいいけれど、本が語っている「ほんものの様子」を、実際に見にいったりいいと思うのです。

わたしも、ほんものを見てよかったなと思ったことがあります。

ヒエロニムス・ボスは、オランダ出身の画家で、^{*}ピーテル・ブリューゲルはボスの影響を受けたといわれています（影響を受ける、といういいかたは嫌いです）。ボスの絵がどうしても見たくなり、スペインまで行きました。

ボスの絵はそんなにたくさんは残っていませんが、三連の祭壇画^{*}があつて（「快樂の園」プラド美術館蔵）、それがすごくおもしろい。現代の作家もあのような絵を描けばいいのに、と思うほどです。

魚に足がはえていたり、魚の口から人の足が出ていたり。デッサン的にはおかしなものもあるのですが、それがおもしろくて、見にいってよかつたと思いました。

ボスのような細かいところまで描いた絵は、むしろ画集の方が、細部までよく見えるのではないかといわれるけれど、ほんものの絵を見ると、どうやって描いたんだろうと思うほど、その丁寧な、描く過程の積みかさねのようなどころが見えてきたり、画集ではわからない雰囲気^{*}が、直接伝わってきたりします。

もちろん、ほんものの絵でも、ちょっと見ただけでは「きれいな色の絵だな」というくらいにしか見えないかもしれません。けれども、もっ

とよく見ると、目に見えるものだけでなく、絵で描かれている人の気持ちや、やりとりの様子や、いろいろな話題が想像できます。そして、さらに絵を描いた人、画家の気持ちも想像できるのです。もちろん想像の域を出ませんが、わたしは絵を見ると、いつもそんなことを考えています。

子どもたちに、本を読んでもらいたい、と先に書きましたが、どのような年代の人でも、本を読んでもらいたいと思っています。本を読まない人たちに、本を読んでもらえるよう、いろいろ書いてみたりしているのですが、これはなかなか難しいことです。

本を読むことは、心の体操だと思っています。本を読んで「心を磨き、鍛え、心が満ち足りること」は、心の中を美しくします。

本を読まないでも、生きていけます。でも、本を読んで生きた人は、同じ十年生きていても、二十年も三十年も生きたことになります。本にもいろいろありますが、多くの本には勉強し、苦勞し、発見した先人がのこしたことが書いてあります。

本を書くとき、人は漠然と書くのではなく、言葉にする段階でよく考えています。それが、本をすすめる理由のひとつです。本はその著者が責任を持って、発言していると、デカルトもいっています。

本が読まれなくなったことは、文明の変化ともいえますが、わかりやすくいえば、テレビや、スマートフォンの持つ手軽なおもしろさに押されてしまったのだと思います。テレビは積極的に「おもしろさ」をわたしたちにさしだし、「おもしろがらせて」くれます。それに対して、

本は、「自分で読む」ということをしなければ「おもしろさ」がわかりません。そして、こちらから積極的に働きかけなければ、何もしてくれない、という違いがあります。

テレビや映画は、受け身で見ることができません。特にテレビは、視聴者をできるだけたくさん集めようとするので、見る人があまり考えなくても楽にわかる、あるいは知ることができるようにつくられています。

一方、「本を読む」ということは、文字で書かれた場面や時間の経過を、自分自身でつかんでいくことになります。

もちろん、テレビや映画でも台本は「本」ですから、ディレクターや監督など、制作者はそれがなくては仕事できません。けれども見る方は、その「本」を制作者が調理したのを見ています。

本は、自分が行こうとしなければだれも連れて行ってはくれませんが、それと比べて、テレビはつけてしまえば、勝手に情報がやってくるので、自分でその道をたどらなくても、最後まで連れていってくれます。その意味で本とテレビとは比べて考えるものではないのかもしれないかもしれません。

そもそも本は、ひとつの道を自分でたどりながら読み、内容が理解できていく、そのことがおもしろいのです。

「本を読む」ことと、「自分で考える」ことはつながっていると思います。⁽³⁾

「本を読む」ことは、自分の考えかたを育てることです。とにかく、子どもたちには、自分で考えるくせをつけてほしいと思います。だれか

偉い人がいつていたからとか、テレビでいつていたからとか、判断を他人に任せるようではつまらないではありませんか。でも、自分で考えるためには、日頃の訓練が必要です。頭がやわらかいうちに、たくさん本を読んで、世の中にはいろんな考えかたがあることを知りたいものです。

(「かんがえる子ども」安野光雅による)

〔注〕

デカルト——フランスの哲学者。

物見遊山——あちこちを見物して回ること。

ピーテル・ブリューゲル——オランダの画家。

祭壇画——教会に飾る絵。

〔問題1〕

⁽¹⁾ テレビでこういつていた、新聞にこう書いてあった、などと、自分の意見はなく、ただただ人のいうことを本気にするだけというのは良くないと思います。とありますが、テレビや新聞の情報に対してどうするのが良いと筆者は言っているでしょうか。二十字以上二十五字以内で書きなさい。

なお、〃や。や「なども、それぞれ字数に数え、一まずめから書き始めること。

〔問題2〕

本が語っている「ほんもの様子」を、実際に見にいったらいいと思うのです。とありますが、それはなぜでしょうか。本文の内容にそって二十字以上二十五字以内で説明しなさい。

なお、ゝや。や「なども、それぞれ字数に数え、一まずめから書き始めること。

〔問題3〕

「本を読むことは、自分の考えかたを育てること」と筆者は言っていますが、それはなぜでしょうか。また、本を読むこと以外で「自分の考えかたを育てる」にはどうしたらよいでしょうか。次の〔手順〕と〔きまり〕にしたがって、四百字以上五百字以内で説明しなさい。

〔手順〕

- 1 なぜ「本を読むことは、自分の考えかたを育てること」になるのか、本文の内容にそって理由を書く。
- 2 1で書いたことをふまえ、本を読むこと以外で「自分の考えかたを育てる」にはどうしたらよいか、あなたの体験をもとにして、あなたの考えを書く。

〔きまり〕

- 最初の行から書き始める。
- 各段落の最初の字は一字下げで書く。
- 段落をかえたときの残りのますめは字数として数える。
- ゝや。や「なども、それぞれ字数に数える。ただし、。と」は同じますすに入れ、一字と数える。